

アフリカ
開発会議
@横浜

遠い大陸 身近に感じて

きょう開幕 51カ国代表団、続々

「広く門戸開放を」

第5回アフリカ開発会議が1日、横浜・みなとみらいで始まる。アフリカ51カ国の代表団が続々と横浜入りし、早速、日本との連携強化を呼びかけた。

「大統領のメッセージです。まず3・11（の東日本大震災）で亡くなった方に黙とうさせていただきます」。日本に留学経験のあるベナンのルフィン・ソマホン大使（48）は31日午前、横浜市議会の議場で日本語でこう切り出した。

大統領の原稿を代読した大使は「横浜が近代都市づくりを果たしたプロセスに学びたい」。日本の近代化が横浜開港から始まった例も挙げ、「アフリカにも広く門戸を開放してほしい」と締めくくった。

農業の近代化 協力を求める

女性元首を代表し、横浜市内で講演したマラウイのジョイス・バンダ大統領（63）は「家庭内暴力に苦しむ女性を助きたい。（医療が行き届かないせいで）出



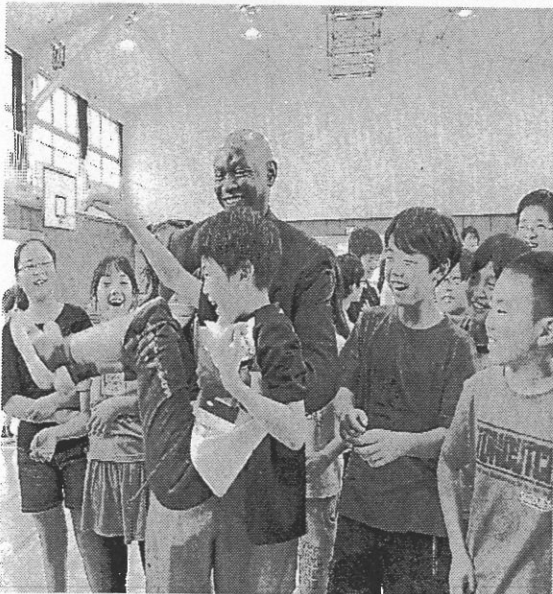
マラウイのジョイス・バンダ大統領

産途中の女性を死なせたくない」と訴えた。インフラと電力不足を解決し、農業の近代化を進めて貧困を克服することが欠かせないと強調。日本の協力を求めた。

記者らも来日 小学校を見学

アフリカの記者たちも来日。31日午後には19カ国の19人が神奈川県立神奈川小を訪れ、授業を見学した後、体育館で6年生と交流した。

児童からは「記者ってどんな仕事？」「日本の印象



児童と交流するザンビアの記者＝横浜市神奈川区

は？」などと質問攻めに。記者の1人は「私の国には20分歩いて通学する女の子もいる。みんな真剣に勉強してね」と呼びかけた。ザンビアの新聞記者、エドウィン・ムビュロさん（42）は、校舎を見て驚い

た。「私の国では小学生は地面に座って勉強する。図書館も楽器もない」。今回の会議について「農業や人材育成などの分野で、日本がアフリカ各国にどんな支援をしていて、これから何

をしてくれるのかを知りたい」と語った。外務省によると、3日までの期間中、海外の約4100人を含む約7500人が会場を訪れる。（山口博敬、多鹿ちなみ）